



福崎町立  
柳田國男・松岡家記念館  
〒679-2204  
神崎郡福崎町西田原  
1038の12  
電話：0790-22-1000

### 企画展

## 松岡映丘画稿展

### 〜映丘が描く説話の世界〜

記念館では、4月19日(土)から5月31日(土)まで、平成26年度松岡映丘画稿展〜映丘が描く説話の世界〜を開催します。

映丘は、日本の事象や風物を題材にした大和絵を復興させるのに尽力した画家です。映丘は、古い時代に回歸するのではなく、あらゆる時代に眼を注ぎながら、絵を描きました。



「みほつくし (源氏物語)」

そして、それまで文学作品や歴史物語に限定されていた題材を、地方の伝説、民話へと広げる試みも行いました。

本展では、平成24年度に補修した「みほつくし(源氏物語)」をはじめ、説話を題材とした作品を展示します。ぜひ、映丘が描いた説話の世界をご覧ください。

## 鼎と國男が 過ごした布川

『記念館新聞』第68号

でお伝えしましたように、松岡家の長男である鼎は、医学士のときに代診を勤めて得たお金を両親に送っていました。この代診を勤めていた家は、同じ播磨出身の海老原精一の家でした。

精一の妻・としは、布川の医師・小川東作の娘でした。しかし、東作は45歳で亡くなってしまいます。そこで精一は、鼎を妻の実家である小川家邸内の離れに住ませました。

こうして鼎は、小川家の医療設備と地盤を引き継ぐ形で、明治20年(1887)2月に茨城県北相馬郡布川町(現北相馬郡利根町布川)で「済衆医院」を開業しました。そして、半年後に医院



利根町立柳田國男記念公苑 (旧小川家)

の経営が軌道に乗り出すと、國男を布川へ呼び寄せたのです。

國男は、両親と弟の静雄と映丘が来るまでの2年間、布川で自由に過ごし、育ちました。

名作著書紹介

## 故郷七十年を 読む

『故郷七十年』には、國男は布川で「素っ裸で棒切れを持ってそこら中をと

### ☆☆入館案内☆☆

#### ☆開館時間

9時～16時30分  
(入館は16時まで)

#### ☆休館日

月曜、祝日の翌日  
12月28日～1月4日

#### ☆入館料

無料



柳田國男記念公苑資料館 (旧小川家土蔵)



学問成就の道 入口の石碑

びまわっている。それだけなら普通の悪太郎なのだが、帰って来るとやたらに本を読む、じつに両刀使いであった」と記しています。

國男が布川で読んでいた本は、小川家の土蔵に収められていたものでした。國男は、福崎の大庄屋三木家の蔵書によって「雑学風の基礎」を形づくったと記しています。

今月号から、平成26年度の始まりとなります。柳田國男・松岡家記念館では、本紙で毎月の出来事をお伝えしておりますが、年に1度館報『うぶすな』も発行しております。今回の発行で、第3号を迎えました。1年間の活動報告とともに今年度の活動予告も記しておりますので、ぜひご覧ください。そして、『記念館新聞』第67号でお伝えしましたように、平成26年は松岡家の長男である鼎の没後80年の節目の年となります。そこで、鼎の業績をお伝えするために、3月に鼎のゆかりの地、千葉県の布佐町を調査しました。

その成果は、当館の展示に取り入れるとともに、『記念館新聞』でも紹介していきます。今年度もさまざまな展示や行事を行いますので、ぜひご来館ください。よろしくお願いたします。

